



# 悠久会 埼玉支部 会報

新潟大学 工学部 同窓会

(第19号)

発行：悠久会 埼玉支部

発行者：支部長 田島富二夫 (子43)

編集者：副支部長 鯨井 和幸 (電47)

発行日：平成29年5月5日

## 悠久会 埼玉支部 総会(第23回)のご案内

拝啓 新緑の候、支部会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

最近年々、夏の訪れが早まっているようです。まだ4月なのに真夏日なんてびっくりしましたね。お体の健康・体調管理には、十分ご注意ください。 と言うことで…、

平成29年度の悠久会埼玉支部総会を、下記のとおりご案内いたします。

当日は、母校・本部ならびに近隣支部から、多数のご来賓をお招きいたします。

ご多忙とは存じますが、皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようお願いいたします。尚、準備の都合上、5月20日(土)までに到着しますよう、同封の葉書にてご出欠のご連絡を頂きたくお願いいたします。 敬具

### 記

1、日時 平成29年6月3日(土) 11:00~16:00

2、会場 東晶大飯店

住所 さいたま市大宮区宮町2-28 あじせんビル3F

電話 048-644-0881

交通 大宮駅(新幹線・高崎線・宇都宮線・埼京線等)  
東口より徒歩5分

### 3、式次第

第I部 総会 11:00~12:45

母校・本部近況紹介 他

講演会 (12:00~12:45)

「健康寿命を延ばすには？」

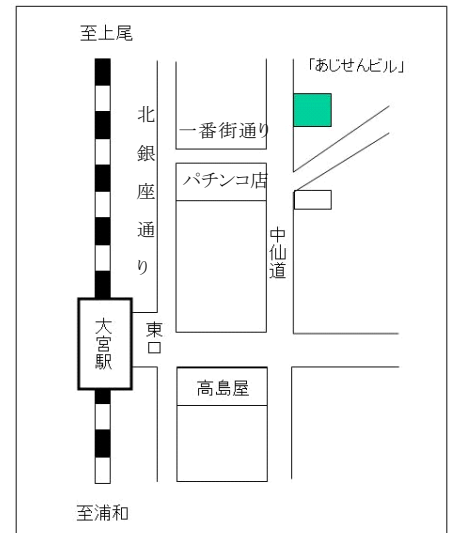
…(医)榊原厚生会 新宿三井ビル クリニック

理事長補佐 菊池 利夫 氏(医S49卒)

第II部 懇親会 13:00~16:00

(…二次会、あります。)

4、会費 8,000円 (但し、学部卒業後5年未満の方は、ご招待とさせていただきます。)



尚、返信用葉書にはメールアドレスの欄がありますが、勤務先/ご自宅とも支部からのご案内を差上げて支障の無いアドレスをお書きください。(両方でもかまいません) ご返信の宛先は、埼玉支部・事務局 倉品 俊裕(電子S42)宛てとなります。

### 支部年会費 納入のお願い

埼玉支部の年会費は2,000円です。支部総会案内や会報の作成・印刷他、連絡費用等の活動資金です。同封の郵便振替用紙をご利用ください(通常払込料金無料)。健全な支部活動を継続するためにも、支部会員の証としてぜひご納入いただきますようお願いいたします。

## 工学部の歴史を振り返り、支部活動を活発にし

### 母校の発展に寄与しよう！

埼玉支部 支部長

田島富二夫（電子 S43）

埼玉支部の皆さま、桜の季節も終わり新緑の季節を迎えようとしている今日この頃ですが、ご健勝にてご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。また日頃は悠久会の活動にご協力を頂き誠にありがとうございます。

新潟大学工学部は1923年12月に発足した長岡高等工業学校に始まり、1944年に長岡工業専門学校と改称し、1949年に発足した新制新潟大学へと引き継がれて今日に至っています。同窓会の活動も1927年に第一回卒業生を世に送り出し同窓会「長岡高工会」が設立され、1968年に新潟大学工学部同窓会となり翌年の1969年より悠久会の愛称で親しまれるようになったとのこと。

長岡高等工業学校に始まり、その前身を含めて工学部の歴史は古く、工学部と同窓会も1世紀近い活動の歴史となっています。

長岡高等工業学校が発足した1923年の9月に関東大震災がありました。長岡高専と改称した1944年は高専・大学での軍事教育が全面強化された年でもありました。そして新制大学として出発をした1949年は日本人として初めて湯川秀樹博士がノーベル物理学賞を受賞した年でもありました。

工学部電子工学科が開設された1963年(昭和38年)はサンパチ豪雪で新潟市や長岡市をはじめ県内はもとより、近隣の県にも様々な大きな被害もたらされた年でした。翌年の1964年は新潟地震が発生し市内の多くの地域の家屋が水没をするという被害となり、新潟市内の石油タンクが火災を起こし鎮火に数日を要したという事態まで起きましたが、幸いにも津波被害もなく地震による死者はゼロとのことでした。

以上のように大学の歴史の節目には大きな出来事、社会にインパクトを与える出来事が起きておりましたが、大学人や学生・同窓生の活躍もあり今日の工学部を支えて来たものといえます。

そして2023年には工学部発足100年を迎えようとしており、まさにその歴史が1世紀の歴史となるところです。このことは私たち同窓生としても大きな誇りとなっているものと思います。

そして埼玉支部は1995年10月27日に東京支部から分離独立をし、70名近い同窓生を迎えて江森義雄氏(故人)を初代支部長とし大宮サンパレスにおいて発足総会を行い、悠久会埼玉支部として発足し現在に至っています。

今年は支部が発足して22年となりますが、2001年と2010年にはさいたま新都心のラフレさいたまにおいて全国総会を開催し悠久会の全国的活動に貢献しました。そして2021年には発足後3回目となる全国総会を埼玉支部において開催することが予定されており、その活躍が期待されています。

埼玉支部は関東圏の中で距離的に中心的位置をなし、東京支部・神奈川支部・千葉支部と支部総会での交流を行い、その後群馬支部・栃木支部とも交流を行うようになり、関東圏での同窓会の交流の輪を広げる上で一定の役割を果たしていると感じているところです。

2001年の全国総会後に始まった支部の中心的活動である「ふれあい・さいたま ウォーキング」は近隣支部の同窓生も参加して毎年継続され、神奈川支部や群馬支部、そして人文・法・経済学部首都圏支部でもウォーキングを開催するという結果となり、健康と知識・見分を広める活動の先駆的役割を果たしていると感じていると考えています。

支部役員会は、ほぼ年に6回ほど開催し若い同窓生も参加をして活発に活動をおこなっており、支部活動の原動力となっているものといえます。

大学が困難な状況下にある現在、同窓会活動の発展はそれ自体が大学発展に対する貢献と考えることができ、とりわけ首都圏の悠久会の活動は大変重要なものと考えられることから、ますます首都圏全体の活動に貢献できるように、これから更に支部活動を活発に展開し、大学の存在価値を上げられるように努めて行きたいと考えているところです。

## 工学部長 就任のご挨拶

新潟大学 工学部長  
小椋 一夫 教授



### はじめに

平成29年4月より、大学院自然科学研究科長に就任される田邊裕治前学部長を引き継ぎ、工学部長を務めることとなりました。歴史あるそして新しくなった工学部であり、その重責に身の引きしまる思いです。

### 工学部の理念とめざす教育

新潟大学工学部は、新潟大学の理念を踏まえ、創造力と総合的判断力を有する有為な人材を育成し、基礎から応用にわたる国際的水準の研究を推し進め、社会と連携しつつ、自然との調和に基づいた人類の幸福に工学を通して貢献することを基本理念としています。そして次のような教育をめざします。

- ・ものづくりをたいせつにする心を育む
- ・豊かな創造力と柔軟な思考力を育む
- ・高い自主性と倫理観に支えられた実践力を育む
- ・基礎的な事象を正しく理解し、かつ全体を総合的に判断できる能力を育む
- ・一つの分野だけでなく、学際的ではば広い知識を育む

### 改革の必要性

工学部の理念・目標は変わってはおりませんが、大学を取り巻く社会状況は大きく変化しております。その変化にはこれまでとは異なる多様性と高度化が見られます。日本あるいは新潟という一つの地域に閉じたものではなく、それぞれのスグそこに世界が繋がるようになってきました。例えば、情報通信を中心とした技術の進歩により、地域社会との繋がりには、これまで以上の多くの人々が関わってくるようになっていきます。誰も経験したことが無いほどの多くの地域、桁違いの人々が簡単にしかも多角的に、お互いに関わり合える時代が到来しています。今回の変化をもたらした大きな要因は、技術の進歩であることは誰も認めるところと思います。技術革新が工学を通して社会を変えている時代に、新潟大学工学部はどのように対処するのか、迅速に答えを出す必要がありました。

### 工学教育の方向性

新たな工学部では、これまでの7学科を1学科に統合します。多様な考え方をを持った入学者が段階を踏んで勉強しながら、最終的には、多様な社会のニーズに合った能力を身につけていくことで入り口と出口の整合性を高めています。

今回の改組の特徴としては、従来の工学系分野を機械社会基盤、情報電子、化学材料及び建築の伝統的な基幹4分野に再編した上で、工学の枠を超えた融合領域分野を新設したことが挙げられます。工学系分野の情報を強化し、これまでの工学の域を超えた融合領域分野を設けることで、高度化、多様化、複雑化する社会の課題に適切に対応する人材育成を目指しています。さらに、これまで培ってきたドミトリー型教育に基づいたスマート・ドミトリー・クラスを設け「出る杭を伸ばす工学教育」を取り入れて、トップ・グラジュエイトの育成を図ります。

学部と大学院教育プログラムを見直し、6年間を通した教育プログラムとして工学教育のさらなる高度化へ繋がります。

### おわりに

上述しましたように、平成29年度より工学部はこれまでの7学科を1学科に統合しますが、理学部と農学部も改組しております。新潟大学の自然系3学部は全て1学科となり、さらに創生学部が新設されました。時代に即した改革を目指して、関係各位の大学教育に対するやむに止まれぬ情熱もあり、議論が白熱する場面もありました。その結果として、5年後さらには10年後を見据えた新しい高等教育がここ新潟からスタートします。誠実に丁寧に新しい工学部を育て、次世代を担う学生諸君と一緒に教育研究を進めていく所存です。皆様の暖かく力強いご支援を是非ともお願いいたします。

電子工学科の第一期生として 1963 年の 3 8 豪雪時に入学した我々も、本年 2017 年（H29 年）3 月で、卒後 50 年を迎えました。同級生達も、そろそろ会社勤めを終わり、新しい人生に向かい手探りの事でしょう。この機会に、一期生の目で見えた電子工業がどの様だったか、思い出をまとめてみます。

大学時代 1 年生の思い出としては、1963 年 11 月の朝、通信衛星を使った宇宙中継放送の開始日に米国大統領暗殺のニュースがあり、大変驚きました。又、2 年生の 1964 年 10 月には日本からの世界初のオリンピック映像生中継が開始され、まさに電子の時代の幕開けを感じました。

S42 年（1967 年）の就職活動は、不景気のせいもあり、先輩のいない電子工学科にとって、大変厳しかった。私は運よく、卒研での真空技術の知識等を生かし、受動電子部品会社に入社出来ました。

入社当時の電子工業は、ある面で勃興期であり、真空管式カラーテレビやセパレートステレオなどが有力商品でしたが、マーケット規模も小さかった。1968 年に入ると、トランジスタ式カラーテレビや、コンポステレオの立ち上げ等があり、急速に好景気に向かいました。その後、景気の大きな変動を経ながらも、その都度新製品が生まれ、電子工業は規模を拡大して行きました。

さて、電子工業を考えると、当然のことながら、真空管→トランジスタ→半導体集積回路（IC）という能動素子の変遷に大きな影響を受けてきました。

我々の同級生はトランジスタ→IC の時代に、大量に社会に巣立ったこととなります。

ご存じの様に、IC の成長スピードは、1965 年に発表された次の法則で予測されています。

ムーアの法則（インテル社）：「IC の実装密度は 2 年（24 ヶ月）毎に 2 倍に成る。」

この法則による成長スピードは大変な数値ですが、論文発表後この 50 年間、ほぼ予測通りに成長して来ました。先端セットメーカーはこの IC の成長予測を信じ、その予測に基づく新商品を立案し、商品化して来た様です。一方、我々電子部品会社も電子機器の開発段階より参画し、電子機器の要求ニーズに合致する様、部品の小形・高性能化を行い、電子工業の急成長に貢献できました。

それにしても、日本電子工業は凄まじい勢いで電子製品を開発し販売してきたものです。

トランジスタカラーテレビ（68）…液晶電卓（73）…VTR（75）…デジタルオーディオの登場（77）…ウォークマン（79）…CD プレーヤー（82）…8mm ビデオカメラ（85）デジタルカメラ（95）…携帯電話のインターネット接続（99）…等々

たくさんの電子機器の出現はあったが、度々の激しい円高の影響を受け輸出産業としての日本の電子機器の採算は徐々に悪化し、70 年～90 年代にかけ東南アジア等にシフトが進み、更に 90 年代後半より中国シフトが拡大していきました。私も、1995 年～2000 年には激しい円高（1 ドル 80 円時）対応の為に、東南アジアの勤務も経験しました。良い経験が出来たと思います。

又、2000 年頃迄は、パソコン・携帯電話・ウォークマン等と個別の電子機器が多量に販売されたが、2007 年にスマートフォンが出現すると、携帯電話と個人パソコンが合体する等、電子機器マーケットの縮小が発生した事をご存じの通りです。IC の高密度化のなせる業です。

又、2000 年前後から、日本の電子機器メーカーの生産力が弱まり、海外の巨大な EMS メーカー（電子機器生産受託メーカー：ホンハイ等）に生産委託の動きが強まり、現在もこの傾向は続いています。

一方、半導体（IC）は、カーエレクトロニクス・メカトロニクス等、電気機器・自動車等に浸透し、用途を大幅に拡大しつつあり、電子部品の新規有力マーケットに育ちつつあります。

我々の入社時の未来予測として、IC の急激な成長スピードで、受動電子部品は殆ど IC に取込まれ大幅に減少するとの予測があり、大変暗い思いをしました。しかし、その後の推移の中で、IC は万能ではなく、必要な部品は継続使用される事が判明し、改善効果もあり、むしろ会社は成長出来ました。

1995 年マレーシア勤務時に、現地ローカルの多くが携帯電話を使用している事が分かり、びっくりしました。日本では殆ど普及していない時代です。電話線等のインフラを整備せず、携帯電話に移行する方が簡単だった様です。この様な事が、日本のスマホ携帯の出遅れの遠因かと思えます。

〈 了 〉

# 「ふれあい・さいたま ウォーキング」活動報告

埼玉支部 副支部長

出井 道夫 (機 S52)

埼玉支部の恒例行事「ふれあい・さいたま ウォーキング」の活動を紹介します。  
歩いて訪ねる埼玉再発見の旅です。平成28年度は、3回のウォーキングを行いました。

## 第52回 天覧山(飯能)から高麗を訪ねる旅

期日:平成28年6月11日

当初の計画は、天覧山から宮沢湖を訪ねる予定でしたが、6月1日から宮沢湖周辺が立ち入り禁止になりました。(ムーミンのテーマパークの建設工事が始まるとのこと)そこで、急きょコースを変更し、天覧山から高麗峠を抜けて、巾着田まで歩きました。

天覧山の名称は、明治天皇が近衛兵の演習を、この山頂からご覧になったことに由来します。低山ですが、眺望に優れます。高麗峠は、標高が200m 足らずの丘陵です。天気にも恵まれ、快適な森林ウォークができました。



天覧山

## 第53回 秋ヶ瀬公園を訪ねる旅

期日:平成28年9月24日

ふれあい・さいたまウォーキングで過去に一度歩いていますが、十数年ぶりに秋ヶ瀬公園を訪ねました。あいにく昼頃から小雨が降り出してしまい、傘をさしてのウォーキングになりました。

秋ヶ瀬公園の北側には、サッカーJ1浦和レッズの練習グラウンド(レッズランド)があります。ジュニアチームが練習していました。サッカー場は、フェンスやポールもチームカラーの赤ですが、公園の土手に咲き始めた曼珠沙華の赤が、見事にコラボレーションしていました。



西浦和駅からスタート

## 第54回 古くて新しい街 川口を訪ねる旅

期日:平成28年11月26日

かつては鋳物の街でしたが、現在では東京のベッドタウンとして、埼玉県第2位の人口を持つ川口を訪ねました。東京との境を流れる荒川は、河原も土手もきれいに整備され、治水のための設備も整っていました。街中には、鋳物の面影は全くありません。数多くのスーパーやショッピングセンターが存在する、商業都市でした。今回は、川口駅を発着にしたコースでしたが、川口にはまだ見どころがあります。また別の機会に、違うコースも計画したいと思います。



川口駅前 キューボロの像

埼玉支部ではこれからも季節毎に、「ふれあいウォーキング」を計画します。興味のある方・参加希望される方には、案内をEメールでお送りしますので、お気軽に下記アドレスにご連絡下さい。県外支部や他学部からの参加も大歓迎です。同窓生と気楽に歩いてみませんか。

連絡先:出井(機52):kwgid@jcom.zaq.ne.jp

\*\*\*\*\* 支部・編集子からのお知らせ \*\*\*\*\*

※ 今年の全国総会は、栃木です。

『“世界遺産の街日光” 鬼怒川温泉総会』

… 7月1日(土)～2日(日) 日光市鬼怒川

講演会及び総会・懇親会とも 「きぬ川スパ/ホテル 三日月」

詳しくは、悠久会時報・第131号をご覧ください。

※ 来年以降の全国総会開催地は、以下の予定です。

- ・平成30年 東京
- ・平成31年 群馬
- ・平成32年 長野
- ・平成33年 埼玉
- ・平成34年 大阪/兵庫
- ・平成35年 長岡 (100周年)

※ “悠久会” 100周年記念行事の取組みについて(その2) 埼玉支部 副支部長 大友 眞(機S52)

3月23日(木)に今年の工学部卒業祝賀会がANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。この卒業祝賀会の前に第3回100周年記念行事実施検討委員会が開催されましたので、簡単に内容を紹介します。100周年記念行事では、「モノからヒトへ」、「ハードからソフトへ」という考え方で各種イベントを立案することになりました。内容としては、①学生教育支援、②記念誌編集、③記念碑建立であり、これ等を実現するための資金として、募金を行うことが決議されました。行事内容の詳細と募金活動については、次回第4回100周年記念行事実施検討委員会(7月1日開催の全国総会に先立って開催を計画)で検討することになりました。尚、この検討委員会は次回第4回を以って終了し、その後直ちに実行委員会を立ち上げる計画です。検討委員会のメンバーがほぼそのまま実行委員会に移る予定です。

また、募金については期成会を立上げ、実行委員会とは違う形で記念事業に貢献して行くことになりました。

※ 昨年度(第22回)埼玉支部総会 集合写真です。



6月3日(土) AM11:00 「東晶大飯店」で、お待ちしております。